

赤い羽根共同募金運動の成果

地域の課題解決に向けて

ネット募金

赤い羽根共同募金にインターネット上でご寄付いただけます。



はねっと

赤い羽根共同募金の使いみちはこちらからご覧いただけます。



助成の事例

地域のさまざまな課題を解決するために

赤い羽根共同募金で集まった募金の約7割は、募金をいただいた地域で使われます。残りの約3割は、皆さまの住んでいる市区町村を超えた、広域的な課題を解決するための活動に、都道府県の範囲で使われています。令和3(2021)年度にお寄せいただいた募金では、全国46,646件の市民による地域福祉活動を応援しています。共同募金により応援した活動の一部を紹介します。



茨城県

ひとり親世帯等への食糧・日用品配布事業

社会福祉法人 下妻市社会福祉協議会



ひとり親世帯等への緊急支援として、延べ483世帯へ食糧品や日用品の詰め合わせ、冬にはケーキ引換券を配布しました。長引くコロナ禍により、ひとり親世帯などを中心に家庭での食事が十分に確保できないなど、子どもの食生活に深刻な影響が出ている中、食糧品や日用品の支援を通じて食べる喜びや社会とのつながりを感じてもらう機会になりました。

配布日に合わせてイベント(スーパーボールすくい、サンタに会えるイベント等)を実施し、たくさん子どもたちが参加しました。学校行事やさまざまなイベントが中止される中、子どもたちの思い出づくりにも寄与できたものと思います。



群馬県

ダウン症支援に係る研修事業

公益財団法人 日本ダウン症協会群馬支部



ダウン症の子育て経験をもつ専門相談員が、本人と係わる専門職(医療・保育、発達支援センター・特別支援学校・放課後等デイなど)向けに講演会・勉強会を開催しました。

ダウン症の特性や生活のしづらさについての情報はあまりなく、専門職に十分に理解されていません。また、親も専門職からの情報に頼った子育てをせざるを得ないため、こうした巡回セミナーは、子どもたちの発達につなげるための大切な機会です。

子ども達の生活に必要な環境を整えていくため、今後もダウン症巡回セミナーを続けてまいります。



千葉県

被災者のための災害復旧支援活動

千葉ボラサポート



いただいた募金により、ボランティアが安全に高所作業に取り組むためのNPO保険に加入でき、安心して作業ができました。

令和元年台風から2年が経ち、ブルーシートの家も少なくなりましたが未だに雨漏りのなか暮らしている家もあり、台風や大風があればブルーシートが剥がれたり、新たな雨漏り箇所が発生したりと長期的の対応が必要であると感じています。

今後も被災者のニーズに応えることができるよう、社会福祉協議会や近隣の災害ボランティア団体との連携を取りながら活動を継続していきます。



長野県

町内の子どもたちに向けたお弁当の配布事業

NPO法人 辰野自立生活支援の会あかり



「若い世帯も仕事・子育てに追われ大変ではないか」という気づきから、3年前から町内の小中学生(特に土曜日に保護者がいない家庭の子ども達)を対象にこどもカフェや学習支援を実施してきました。

コロナ禍でこれまで実施してきた活動ができない中、独自事業として3密にならないよう、野外で「おにぎり弁当」の無料配布と、プロの演奏家のご厚意による生演奏会を開催しました。子どもたちは、「もらっていいの!？」と嬉しそうにお弁当を持ち帰っていきました。

今回の活動を通し、今まで関わりのなかった家庭からも連絡をいただき、支援することができました。

令和3(2021)年度

共同募金運動
の
概要

募金総額

共同募金総額	16,950,228,800円
赤い羽根共同募金	12,664,560,388円
地域歳末たすけあい募金	3,688,990,040円
NHK歳末たすけあい募金	596,678,372円

助成総額

共同募金助成総額	14,390,859,024円
赤い羽根共同募金による助成	10,501,319,735円
地域歳末たすけあい募金による助成	3,336,924,859円
NHK歳末たすけあい募金による助成	552,614,430円



鳥取県



島根県



沖縄県

赤い羽根共同募金は、年間200万人のボランティアの皆さまに支えられています。

令和3(2021)年は、パンデミックのなかでの募金活動となりましたが、全国各地のボランティアの知恵と工夫により募金活動が開かれました。



和歌山県

災害ボランティア運営事業

海南市社会福祉協議会



災害ボランティアへの参加や関心を持っていただくためのきっかけづくりや、災害ボランティア・災害ボランティアセンター設置についての知識を深めていただくほか、活動の充実や資質向上のため、講座や訓練等を実施しました。被災地でのボランティア活動を円滑に進めるための拠点として、災害ボランティアセンターは重要な役割を果たします。今後も、発生が予測される大規模災害に備え、住民一人ひとりに防災、減災意識をもってもらうとともに、スムーズな被災地支援活動ができるよう事業実施していきたいと考えています。



岡山県

地域の居場所づくり支援事業

玉野市社会福祉協議会



地区のちょっとした困りごとを解決するための仕組み「地区ボランティアセンター」では、地域の憩いの場となるカフェも併設しています(今年は感染予防の観点から、食事提供をお弁当配付に変更するなど工夫しました)。

こうしたカフェは、住民同士が気軽に集うことができ、閉じこもり予防、居場所づくり、生きがいづくりにも繋がっています。コロナ禍でも地域のつながりを絶やさないよう、住民同士のつながりを深め、より良いあたたかい地域づくりを目指していきます。



熊本県

障がい(児)者通所事業の利用者送迎車両の整備事業

荒尾市ふれあい福祉センター



これまで車椅子の利用者さんが乗車できる車は、大きなリフト車か小さな軽自動車しかなく、狭い道の送迎は大型車では通行できませんでした。また、大きな車椅子などの送迎は、軽自動車で積むことが出来なかったため、とても不便で利用者さんにも負担をかけていました。

今回、共同募金の助成金を頂いて、車いす対応のスロープ車を購入することにより、利用者さんに負担をかけずに、安全に乗車していただけるようになりました。自力での移動や外出が困難な方々にとって、福祉車両の存在は日常生活に欠かせません。利用者の送迎や移動がスムーズになり、大変助かっています。



宮崎県

発達障がいコミュニケーション支援事業

NPO法人 サザンウィンド



発達障がいの方の支援の中核となるコミュニケーションの支援について、ワークショップ、講演会、実践報告、セミナーを実施しました。専門的な最新の情報を共有するとともに、保護者や医療・福祉・教育関係者、行政の方などの関係者が立場を越えて一同に会することで、ネットワークの構築を図ることができました。

新型コロナの影響でオンラインでの実施でしたが、県内外からも多数の関係者にご参加いただき、コミュニケーション支援に関心の高さが感じられました。今後も、適切なコミュニケーション支援を関係者が協働して行っていくことを期待し、事業を実施していきます。